

安曇野市は何位？ 「決算統計」でみる市の財政状況

昨年度のお金の使い方について、説明してきましたが、お金のやりくりの力を「決算統計」を用いて分析してみます。「決算統計」は、全国の自治体で統一された方法で行われているので、各自治体の財政状況を比較することが可能となります。長野県内19市の中で、安曇野市の財政力は何番目に位置しているのでしょうか？(平成17年度県内都市(19市)普通会計決算状況より分析。財政力指数、実質公債費比率は3カ年平均)

財政力指数ランキング(県内19市)

安曇野市が全国平均的な行政活動を行うために必要な経費の財源は、59%確保しています。

1位	諏訪市	0.83
2位	松本市	0.73
3位	長野市	0.69
10位	安曇野市	0.59

財政の体力を見る ■ 財政力指数

財政力指数は、地方公共団体の財政力の強弱を示す指数です。地方交付税の基準財政収入額、基準財政需要額から計算されますが、「1」以下であれば、その不足部分は地方交付税が交付されます。「1」以上であれば、地方交付税は不交付となり、自前の財源だけでいわゆる「標準的行政サービス」を行うことができるというように判定されます。安曇野市の財政力指数は0.59で、県内の市でも10番に位置します。

財政のゆとりを見る ■ 経常収支比率

経常収支比率とは、経常的に支出する経費(経常的経費)のために「経常一般財源」(市税・地方交付税等)がどれだけ消費されたかを示す比率です。

経常収支比率が高ければ、経常一般財源の使途が固定していることになり、財政の硬直化が進んでいることを示します。逆にこの比率が低ければ、ほかの使途に回せることになり、余裕のある財政状況にあると言えます。

経常収支比率ランキング(県内19市)

市として行うべき事業(生活保護費支給ほか)が増えたことを主な理由として、昨年度に比べ4.5ポイント上昇しています。合併の効果を生かしつつ、より一層の行財政改革を図る必要があります。

1位	小諸市	77.3%
2位	佐久市	80.0%
3位	塩尻市	81.3%
5位	安曇野市	82.7%

後年度の負担を見る ■ 実質公債費比率

地方公共団体の自主性を高める観点から、平成18年度から地方債の発行は、「許可制」から「協議制」に移行されました。

この協議制下においては、国の基準に適合すれば、地方債の発行が原則、可能となります。同時にこの発行を制限する指標として「実質公債費比率」が導入され、財政構造の弾力性を判断する上で、実態により近いものを判断できるようにになりました。

実質公債費比率ランキング(県内19市)

実質公債費比率は、18を超えると地方債の発行が許可制に戻ってしまいます。県内81市町村のうち25市町村が18を超える中において、安曇野市は13.8となっています。今後も地方債の償還額を見定めながら、事業を計画的に行います。

1位	小諸市	8.0%
2位	佐久市	11.8%
3位	須坂市	11.9%
9位	安曇野市	13.8%

10月～



市道新設改良事業

(豊科南部559号線、穂高217号線、堀金1級1号線ほか)旧町村からの継続事業として、道路改良54路線、新設舗装10路線、橋梁整備1路線を行いました。

5億7,365万円

3月



穂高駅周辺地区公園整備事業

旧穂高町の事業を引き継ぎ、北城公園の造成、礒山公園用地取得・実施設計を行いました。

5,247万円

10月



堀金小学校建設事業

旧堀金村の事業を引き続き進め、小学校の新築工事を完了しました。

12億9,817万円

10月



消防団法被等購入事業

女性隊員を増員して、新消防団を発足するとともに、法被新調、詰所改修、車輛名称変更などを行い、新市消防団の士気高揚を図りました。

2,186万円

10月



豊科南小学校大規模改造事業

旧豊科町の事業を引き続き進め、地震補強、大規模改造工事を行いました。

3億906万円

10月～



給食センター建設事業

合併前から計画が進められてきた中部・南部学校給食センター建設事業に着手し、地質調査、用地関連工事を行い、平成18年度の本格的建設工事に向けた準備を進めました。

432万円